

アジア地域臨床獣医師等総合研修事業

夏期全体研修の実施

本事業は、本誌第70巻第5号で紹介したとおり、日本中央競馬会特別振興基金助成により1年間の準備期間を経て、今年度4月より第1期研修生12名（モンゴル、中国、韓国、台湾、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、スリランカ、アフガニスタン、ベトナム、ネパールより各1名を採用）を迎え、全国獣医学系大学のうち、北海道大学、帯広畜産大学、岩手大学、東京大学、東京農工大学、山口大学、宮崎大学、鹿児島大学、大阪府立大学、酪農学園大学、麻布大学、日本大学において、家畜の越境性感染症や臨床獣医療等に関する研修を実施している。このたび平成29年7月22日～8月2日の日程で、夏期全体研修を国内関連11施設で実施した。見学時の研修生の感想等は以下のとおりである。

- ①「東京都芝浦食肉衛生検査所」において、検査所の処理頭数の多さ、病原体や残留化学物質の先進的な検査機器の配備に驚くとともに、都心における環境に配慮した廃棄物処理システムを称賛していた。
- ②「よこはま動物園ズーラシア」において、同園の飼育動物と観客の双方に快適な環境が整えられていることに驚いていた。
- ③「横浜市繁殖センター」において、センターでのバク等の絶滅危惧種を保護する努力が印象的であり、研修生の1人から自国の野鳥の絶滅対策の取組みへの日本の協力に対し感謝が述べられた。
- ④「JRA美浦トレーニング・センター」において、初め

て馬の手術、調教を見学して感激していた（図1、2）。

- ⑤「農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門」において、同研究設備の充実に感心するとともに、研究者の方々の親身な対応に感謝した。
- ⑥「共立製薬(株)先端技術開発センター」において、日本の動物用医薬品産業の構造に興味を示した。
- ⑦「動物検疫所成田支所」において、日本の検疫システムを自国に伝えたいとの意向を示した。
- ⑧「瑞穂農場那須支店」において、巨大な農場設備で多数の牛がシステムの的に衛生管理されていることに驚いていた（図3）。
- ⑨町村農場において、乳製品の生産、加工、販売まで手



図1 競走馬の関節内遊離骨片除去手術の説明を受ける研修生



図2 JRA美浦トレーニング・センター競走馬診療所を訪れた研修生と日本中央競馬会 加藤智弘管理課長（前列中央）

がけるモデル農場に感心していた。

⑩酪農学園大学において、附属動物病院のレイアウトが洗練されており、1つの大学内に小動物、大動物、野生動物の臨床と研究が集まっていることが意義深いとの感想を述べていた（図4）。

⑪北海道 NOSAI 研修所において、日本の農業共済シス

テムは、損害を受けた農家が立ち直るために非常に重要な仕組みであるとの感想を述べていた（図5、6）。

また、日本文化への理解を深めるため、広島、奈良、京都を訪問し、特に広島平和記念公園では、研修生一同、説明に熱心に聞き入っていた（図7、8）。

最後に、今回の研修において、ご多忙のところ快く研修生の見学を受け入れていただいた11施設の関係者にこの場を借りて改めてお礼申しあげる。



図3 ミルキングパーラーの見学



図4 酪農学園大学附属動物病院（診察室）の見学



図5 北海道 NOSAI 研修所での実習風景



図6 家畜共済制度について学ぶ研修生



図7 奈良・東大寺にて



図8 広島・原爆ドーム前で当時の説明を受ける研修生